

【段ボールベッド】

「自主活動」のみ



国立赤城青少年交流の家は持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。
本プログラムでは下記の重点項目を設定しています。



内容

災害時に避難所などで活用される段ボールベッドを組み立てて実際に寝てみます。災害発生時の避難所での生活について考えます。

活動に必要なもの

- 団体（個人）で用意するもの
 - ①水筒 ②タオル ③動きやすい服装 ④軍手
 - ⑤段ボールベッドの進め方（HPから事前ダウンロード可能）
 - ⑥ワークシート（HPから事前ダウンロード可能）
- 交流の家で貸出可能なもの
 - ①段ボールベッド ②クリップボード

動前の準備

- 入所の受付時に、実施場所や活動時間等の確認を行う。
- 貸出希望物品、アクティビティホールの鍵を事務室で受け取る。
- 食堂売店に、教材を取りに行く。
- 活動場所で、用具の準備を行う。

活動の流れ

- ①集合場所に班ごとにならび、物品を配布する。
- ②団体の代表から防災について説明を聞く。（5分程度）
- ③グループで話し合いをする。（災害発生時、避難所での生活についてなど：10分程度）
- ④床に寝てみる。（5分程度）
- ⑤段ボールベッドづくりをする。（10分程度）
- ⑥段ボールベッド体験をする。（交代で実際に寝てみる：10分程度）
- ⑦まとめ・ふりかえりをする。（感想、段ボールベットは、どんなときに有効か：10分程度）
- ⑧片付けをする。（10分）
- ⑨事務室に完了報告をする。（数を確認して借りた物品の返却）
- ⑩報告後、使用した場所は職員の点検を受ける。

留意点

- R7年度まで、活動前に職員との打ち合わせを行っていましたが、R8年度より、打ち合わせは原則行いません。HP掲載の活動マニュアルを必ずご確認ください、不明点等ございましたら、交流の家までお問い合わせください。
- 段ボールベッド作成時はケガ予防のため、軍手を着用してください。
- 段ボールベッドの組み立て方は、段ボール側面にあります。
- 複数人がベッドに乗るとベッドが破損することがありますので、一人ずつ体験をしてください。
- 段ボールベッドの上での水分補給はご遠慮ください。